

導入

- 8節までにどのようなことが起こったか、簡単に説明しましょう。
- ヨラムは、イスラエルの王ですが、神に従ってはいませんでした。
- ヨラムは、あることでモアブの王に腹を立てます。それで、ユダの王ヨシャパテに連絡し、「この戦いの手助けをしてほしい」と言います。
- ヨシャパテは神とともに歩む王です。
- ヨシャパテは、ヨラムとともにモアブ人と戦うことを承諾しました。
- 彼らは、エドムの王にもともに戦うよう呼び掛けることにしました。
- こうして、ヨラム、ヨシャパテ、そしてエドムの王がモアブ人と戦います。
 - 3人の王だけが戦いに行くわけではありません。
 - 3人の王が率いる軍や馬も戦いに行きます。
 - そのような大軍勢を想像してみてください。

8節

- 「どの道を上って行きましょうか。」 「荒野の道を。」
- 「荒野の道を」というのはとても格好良い響きです。
- 歌のタイトルのように。ハードロックや演歌のタイトルでしょうか。
- 彼らには大きな務めがあります。
 - おびただしい数の兵士や馬が荒野を歩いていくのです。荒野を渡り切ったら、そこではモアブとの戦いが待っています。モアブと戦った後は、また荒野を歩いて帰らなければなりません。
- これは大仕事です。
 - ある人が、夏に数時間かかるハイキングに行ったと話してくれました。その人に、どれくらい水を持って行ったかと尋ねると、ペットボトル一本だけという答えでした。えっと思って彼に「それでどうだった」と尋ねると、「たいへんだった」と彼は答えました。たいへんなはずですよ。
- この大変さを見過ごさないでください。彼らは、軍を率いて荒野を通り、戦わなければならなかったのです。戦いの後には、負傷した者もいるでしょう。その状態で、荒野を歩いて帰るのです。
- もし私が軍の指揮官だったら、これはたいへんな仕事だと思うでしょう。往復の旅路に十分な水が必要です。負傷者も出ます。どれくらい水を持っていけばよいのか、どうやって見積もるのでしょうか。馬と人の飲み水、そして負傷者の治療に必要な水はどれくらいでしょうか。馬はどれくらい水を飲むのでしょうか。戦いはどれくらい続くのでしょうか。戦いがどれくらい続くか分からなければ、水を持っていく量も見積もれません。
- 荒野を通り抜けたときに、十分食事や水も与えられた状態で、戦いに備えなければなりません。
- この時代にコストコはありませんでした。スーパーやコンビニもありません。自動販売機もありません。
- ですから、彼らには大きな課題がふたつあります。
 1. 往復の旅路での水の確保
 - そして
 2. 戦いに勝つこと

戦いに勝つことだけでも、たいへんな務めです。

荒野でどうにかして往復の旅路で兵士や馬に十分な水を供給することも、たいへんな務めです。ではどうなったでしょう。

9節

- 7日間の回り道で、陣営には人や家畜のための水がなくなりました。
- 荒野に入ってたった7日間で、水がなくなったのです。この箇所には、「水が少なくなった」では

なく、「なくなった」とあります。

- 兵士も家畜ものどが渴き、馬の歩みは衰え始めます。
- ある暑い夏の日、私と息子は家に帰る途中でしたが、お腹が空いてのども渴いていました。はやく家に着いて、エアコンをつけて冷たい水を飲みたいと思いました。けれども、家に着くと、鍵を持っていないことに気づきました。それで、2分ほど歩いたところにあるコンビニに行きました。暑くてのどが渴いていたので、たった2分がずいぶん遠い道のりのように感じました。
- 彼らはまだ戦場に着いてもないのです。戦いに行く途上です。
- 戦場に着くまでに、彼らは死んでしまうでしょう。
- または兵士たちが文句を言って、もめ始めるのではないのでしょうか。「水がないとはどういうことだ。こんなことになるのではないかと思っていたのだ。水の供給係は誰だ。」
- これから彼らは戦場に行って戦い、家に帰らなければなりません。たいへんなことになりました。厳しい状況です。
 - 私はクリスチャンになる前、19歳のときにメキシコに行きました。当時、私のキャッシュカードはメキシコでは使えませんでした。それで、旅行中に必要なお金は現金で持っていかなければなりません。けれども、強盗に遭うのが心配だったので、現金をたくさん持って行きたくありませんでした。それで、旅行中にちょうど必要と思われる額を引き出しました。旅行の最終日、起きて朝ごはんを食べ、持っていた最後の現金を使いました。でも大丈夫だと思いました。あとはアメリカ国境まで車を運転すればいいだけです。完璧な計画でした。アメリカ国境に向けて運転していると、有料道路があることに気づきました。私はそのことを知りませんでした。もう現金は使い果たしてしまったので、どうしようかと困りました。ATMを使えるところはありません。メキシコは治安の悪い国です。当時クリスチャンではなかったのだから、祈ることもしませんでした。とても怖かったです。
 - このお話の中の兵士たちは、水がなく、敵に見つかれば殺されてしまうのですから、私よりもっと厳しい状況に置かれています。

これに対し、彼らはどう反応したでしょう。

10節

- 彼らの反応は傑作です。
- 何かがなくなくなったから、または何かが不足しているから、神が彼らに敵対していると結論付けます。
- 私たち人間は、このようにつなげて考えてしまいます。
 - 私たちに必要なものが不足する＝神が敵対しておられる
- **または**
 - 私たちに必要なものを神が取り去られる＝神が敵対しておられる
- 私も、このようなこじつけをしてしまうことがよくあります。
- 信仰の強いクリスチャンでも、そういう状況に置かれれば、神が反対しておられると思うことがあります。
- この個所の人々はそういう反応をしました。水がなくなり、見えるところに水がないので、目に見える希望がないから、神が敵対しておられると結論付けるのです。
- 私たちも、神が自分に敵対しておられると思うような経験をしたことがあるのではないのでしょうか。
- 挫折体験かもしれません。いくら頑張ってもうまくいかないということがあったのでしょうか。そうすると、「私の人生はいつもこうだ」と思ってしまいます。私もそう思ったことがあります。「私は落後者だ。神はわたしとともにいてくださらない。私がしくじるのが、神のみこころなのだ。」このような状況に置かれると、神が私たちに敵対しておられると聞いてしまいます。
 - **または**
 - 私の望むものを神は与えてくださらない
 - **または**
 - 私に必要なものを神が取り去られた
 - **または**
 - 私に必要なものを神は与えてくださらない
- そうなると、「神がいつしよにいてくださらないのだから、クリスチャンでいる意味がない」とか「聖書にあるような奇跡は起こらないのか」と思ってしまいます。

- 私もそんなふう感じたことがあります。皆さんはいかがでしょう。
- 3人の王はそのような状況にいました。戦場に着くにはまだ程遠いのに、水がなくなったのです。このままでは、戦場に着くまでに死んでしまうでしょう。これでは、戦いに勝つのは不可能です。ここでヨシャパテはどうしたでしょう。彼はとても賢明な人です。

11節a

- ヨシャパテは賢明です。恨みや怒りにまかせせることはしません。このような状態でも、神が答えを与えてくださるという希望を持っています。素晴らしいことです。
- ヨシャパテ王よ、どうしてそんなことをしたいのですか。私たちは荒野にいて、のどが渴いています。雲もないので、雨も降らないでしょう。一体、何が起こり得るでしょう。
- 起こりもしないであろうことを期待して何になるというのでしょうか。まばたきをしたら、目の前に自動販売機が現れるわけではないのですから。それはテレビのコマーシャルの世界だけです。そんなコマーシャルがありました。男の人がのどがカラカラの状態です。砂漠の中を歩いていると、砂の中から自動販売機が現れて、誰かがその男性にコーラを手渡します。彼がそれを飲むと、次の瞬間、砂漠に現れたプールでたくさんの人が踊っています。その男性は、その場で一番格好いいサングラスをかけた人に変身します。
- ここでヨシャパテは、不可能と思える状況でも神が答えくださるという希望を持っています。
- これについて少し考えてみましょう。これは素晴らしいことです。この問題の中に解決が見出せるかもしれないという希望を、彼は持っています。つまり、問題そのものが解決策の一部であるという希望です。
- これは希望です。それが真実でないかもしれませんが、良い希望です。
- この問題の中に解決が見出せるかもしれないという希望を、彼は持っています。つまり、問題そのものが解決策の一部であるという希望です。
- これは、私たちが倣うべき模範です。
- 何か足りないというとき、それが何であれ、ヨシャパテのしたことを真似てみるのは名案です。
- 問題の中に解決が見出せるかもしれないと望むのです。つまり、問題そのものが解決策の一部であると望むのです。
- 商売がうまくいっていないなら、問題の中に解決が見出せるかもしれないという希望を持ちましょう。問題そのものが解決策の一部であるかもしれません。
- 私はクリスチャンになってから、宣教旅行でメキシコに行きました。ミュージシャンやピエロを連れて、食糧、衣服などを持って貧困地域を訪れます。町を歩き回って、一時間後に無料のバーベキューとコンサートがあると町の人たちに伝えます。食べ物があるので、たくさんの人がやってきます。けれども、まず短いコンサートをして、福音を伝えます。実際には、みんな食べ物が目当てです。ある朝起きて、食糧やバーベキューのコンロ、食器などを持ってくるのを忘れたことが発覚しました。ミュージシャンもマイクも、スペイン語の通訳もいしましたが、食べ物がありません。ほとんどのメンバーは、どうしようかと途方にくれました。けれども、引率していたリーダーは、問題そのものの中に、解決策があるはずだと信じました。それで、「一時間したら戻ってきます。今から私は車で出かけて、主が何を与えてくださるか待ってみます」と言いました。私は、何を言っているのだと思い、彼が解決策を見つけられるとは期待しませんでした。すると、リーダーは一時間後に戻って来て、宣教師のグループを見つけたと言います。そのグループは、食べ物しか持ってきていなかったの、どうやって伝道活動をしたらよいかわからなくて困っていたと言うのです。そのグループには、スペイン語の通訳も、マイクも、ミュージシャンもいませんでした。それで、私たちは一緒に活動することになりました。問題の解決策は、問題自体の中にもありました。問題そのものが、解決策の一部だったのです。

ヨシャパテは、問題の中に解決策が見つかるかもしれないという希望を持ちました。もちろん、問題の中に解決策がない場合もあります。それでも、こう望むのはよいことです。彼は、不可能と思える状況でも、答えがあると希望を持ちました。そして、希望に基づいた行動を起こし、エリシャのもとへ行きます。

11b - 12節

- エリシャに会って、彼らは何と言ったか想像してみてください。おそらく、のどがカラカラで、困

り果てていたでしょう。

- エリシャに何と言ったのでしょうか。
- エリシャは彼らに次のように答えます。

13節

- なぜ私を関わらせるのですか。
- もし彼らが私のところへ来たら、次のように答えたでしょう。「選択肢はただひとつ、退却することです。水が十分でない状態で戦うというリスクを負うべきではありません。そんなたくさんの水は運べません。家に帰りなさい。」
- イスラエルの王は、神が彼らに敵対しておられると思っています。自分たちがしくじって殺されることを神は望んでおられる、それが神のみこころだ、どうか私たちを助けてください、というのが彼の言い分です。
- 皆さんは、そんなふう感じたことがありますか。
- 「神は私の祈りには答えてくださらない。このたいへんな状況が、私に対する神のみこころだ」と。

14- 15節

- ここで、主のことばがエリシャに与えられます。
- 神は何とおっしゃるでしょう。
- 神は、「あなたがたはしくじる。それがあなたの運命だ。いつも失敗するのだ。あなた方は落後者だ。」とおっしゃるでしょうか。
それとも
- 神は、「言ったではないか。このようなことをすべきではなかったのだ」とおっしゃるでしょうか。
それとも
- 「自業自得だ。計画不足だ。もうあきらめて帰りなさい。チャンスはあったが、そのチャンスをあなたがたは逃してしまった」とおっしゃるでしょうか。

神は、次のようにおっしゃいます。これはすばらしいみことばです。

16 - 19節

この谷に、水をあふれさせる。風も雨もないのに、この谷は水であふれる。神は、モアブ人もあなたがたの手に渡されるのです。

- 神は恵みに満ちたお方です。
- 神が私のようにないことを感謝しましょう。
- 神は彼らにこうおっしゃいます。
 1. 全行程にじゅうぶんな水を与える。
そして
 2. 戦いの勝利を与える。

これは驚くべき答えです。なぜなら、

1. ヨラム王は、神とともに歩む人ではありませんでした。
また
 2. ほんの少し前まで、彼らは神に疑いを持ち、神が彼らに敵対しておられると思っていました。
- 神は恵みに満ちたお方で、彼らがどのような人であっても、神についてどう思っているか、神は、
 1. 全行程にじゅうぶんな水を与える。
そして
 2. 戦いの勝利を与える。

これこそ、神の恵みです。

- ヨシャパテは、解決策が問題の中に見つかるかもしれないと望みました。問題そのものが解決策の一部であるという希望を持ちました。その希望に基づいて行動し、エリシャのもとに行くと、このような答えをいただいたのです。
- 彼が**かすかな希望**に基づいて行動すると、神からこのような答えをいただきました。
- 人は希望を失うと、息が詰まります。一方、かすかな希望でも持っていれば、深呼吸することがで

きます。

- ここには次のように感じている人がおられるかもしれません。
 - 私は病気を患っている。
 - 家族に病人がいる。
 - ビジネスがうまくいっていない。
 - 今の仕事が嫌いだ。
 - 結婚生活がうまくいっていない。
 - 子どもが言うことを聞かない。
 - 夢がない。
 - 生きていてもおもしろいことがない。
- 絶望するよりかすかな希望を持つのは、私たちのためになります。かすかな希望を持っていれば、深く息を吸うことができるようになります。問題自体の中に解決が見出せるかもしれないという希望を持ってください。
- 彼らは、すばらしい答えを神からいただきました。

V 20

- 次の朝、水が流れてきて、一帯は水で満たされました。
- 何が起こったのでしょうか。私にはわかりません。
- 神が水を備えてくださったのです。水のなかったところが、水に満たされました。
- 兵士はどんなに励まされたことでしょうか。
- 兵士の立場になって考えてみてください。朝起きると、
- 「神は私たちの敵だと思っていたけれど、これが神のご計画だったのだ。私たちが問題だと思っていたことは、解決策の一部だったのだ。壁だと思っていたものは、扉だったのだ。水がないことは、谷が水で満たされるという祝福に通じる扉だったのだ。」

水がなかった彼らは、水を十分に与えていただきました。

荒野を通過して、戦い、家に帰るまで、有り余るほどの水が与えられました。水不足の解決策は、問題の中に見つかりました。問題そのものが解決の一部だったのです。水がないことで、ヨシャパテは、問題の中に解決策があるという望みを抱きました。その希望に基づいて行動し、エリシャのもとに行きました。そして、全行程に十分な水をいただきました。

しかし、これで終わりではありません。さらなる奇跡が始まります。

21-25節

モアブ人は、朝早く起きて水を見ました。しかし、水の上を照らす太陽で、それは血のように見えました。それで彼らは、3人の王が同士打ちをしたと考えました。彼らは陣営に攻め入り、戦いに敗れました。

水がなくなったことは、神のご計画の一部でした。解決策は、問題の中にありました。水がなくなったことこそ、彼らが希望を持つべきだというしるしでした。彼らは希望に基づいて行動し、エリシャを訪れました。こうして、帰るまで十分な水を得ました。また、その水が、戦いに勝つ助けとして用いられました。

水がないことは、水を十分にいただく祝福への扉でした。壁が扉だったのです。不思議なことですが、解決は問題の中にありました。人が希望を持つというのは、なんともすばらしいことです。

不可能に思える状況でも、扉の向こうに答えがあるかもしれません。そうでないかもしれませんが、扉の向こうに答えがあるかもしれないと望むのはすばらしいことです。

彼らは

1. 水がない
そして
2. 不可能に思える状況に置かれた

というところから

1. 水が十分ある
2. 戦いに勝利する

という変化を経験しました。

何がこのような変化をもたらしたのでしょうか。ヨシャパテが、問題の中に解決策があるという希望を持ち、それに基づいて行動したからです。

では、2015年に生きる私たちにとって、これらのことはどういう意味があるのでしょうか。

何か足りないとき、私たちはどうすればよいのでしょうか。今日の聖書箇所では、水がなくなりました。私たちにとっては、

- お金がなくなるかもしれません。
- 神が祈りに答えてくださるという体験がないかもしれません。
- 夢が叶うという体験がないかもしれません。
 - これがほしい
 - こうなりたい
 - こんなことをしたい
 - 一定の年齢になるころには、〇〇になっていると思っていた。

まず、皆さんが不足を経験しないですむことを祈ります。神が私たちにいつも十分に与えてくださいますように。しかし、何か足りないものがあれば、どうすればよいのでしょうか。

1. 神が自分に敵対していると思わない。

- 私はいままで何度もそうしてしまったことがあります。

2. 問題の中に解決策が見つかる可能性があるという希望を持つ。

- 言うは易しだと思ふ人もいるでしょう。そのとおりです。言うのは簡単です。私は弱いので、なかなかいつも実行することはできません。できるときもあれば、できないときもあります。あるときできても、次のときにはできないということもあります。もし、問題の中に解決がなかったらどうするのだ、と思いますか。もちろん、その可能性もあります。しかし、問題の中に解決があるという可能性もあります。

3. もしまだ祈っていないなら、具体的に祈ってみる。

4. 解決策の可能性をいろいろ考える。聖書には、求めれば見出すとあります。

5. 違うことを試してみる。方法を変える。

ベストキッドという映画を観たことがありますか。

この映画の中で、学校でいじめられたダニエルは、ミヤギに空手を教えてほしいと言います。ミヤギはこれを承諾し、放課後毎日家に来るようにと言います。ダニエルがミヤギを訪れた一日目、ミヤギは、車にワックスをかけるようダニエルに言いつけます。「ワックスかける、ワックス取る。」

ダニエルがワックスがけを終えると、ミヤギはぜんぶの車にワックスをかけなさいと言います。そこにはたくさん車がありました。「ワックスかける、ワックス取る。」ダニエルは何日も車のワックスがけをしつづけ、ついに怒ってミヤギに文句を言います。「空手を教えてくれるんじゃないのか。こんな時間の無駄だ。空手を教えてくれないじゃないか。」実は、ワックスがけがディフェンスの練習に有効だったのです。「ワックスかける、ワックス取る」は、相手の攻撃を食い止める手段でした。ダニエルの解決策は、問題の中にありました。問題は、解決策の一部だったのです。

時折、神がミヤギで私はダニエルのように感じる場合があります。私は、「ワックスかける、ワックス取る」をさせられて文句を言いますが、私が希望を持つことを神は望んでおられるのだと思います。問題の中に解決策が見つかる可能性があるという希望です。問題そのものが解決の一部だという希望を持ちましょう。そして、それに基づいて行動しましょう。